

Attractiblog :

イントラブログを介したインフォーマルコミュニケーション支援システムの開発

千葉慶人† 西本一志‡

y-chiba@jaist.ac.jp knishi@jaist.ac.jp

† 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科

‡ 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学教育研究センター

1. はじめに

近年, 特定の組織内のみで利用されるイントラブログ[1]の利用が注目されている. イントラブログは記述形式が自由であるため, 従来のイントラネットやグループウェアに比べ, 不定形な情報や知識を蓄積することが可能である. さらに, 運営の仕方によって, 個人の趣味の記事からディープな仕事の記事まで, 様々な記事が投稿され, 新しい組織内コミュニケーションツールとして利用が可能である[2]. すなわち, オンラインにおけるインフォーマルコミュニケーションの促進に寄与しているといえる.

一方, 対面におけるインフォーマルコミュニケーションの重要性も指摘されており, 様々な研究がなされている. 松田らの「HuNeAS」[3]では, リフレッシュルームや廊下などの共有スペースにおいて要求情報を掲示し, 偶然居合わせた人との対面対話を発生させることを試みている. また松原ら [4]は, 共有インフォーマル空間に行くため, あるいは滞在するための口実を与える「言い訳オブジェクト」を提案し, 対面対話のきっかけを提供することを試みている. しかし, これらのシステムはいずれもオフラインでの対面対話の触発のみを目的としている.



図1 リフレッシュスペース

そこで, 本研究ではオンラインとオフラインそれぞれにおけるインフォーマルコミュニケーションをシームレスに繋ぐコミュニケーションメディアを構築する. すなわち, 日常的に投稿されるオンライン上のイントラブログの記事を言い訳オブジェクトと見立て, これを共有インフォーマルコミュニケーション空間に適宜提示することによってオフラインの対面対話を誘発することを試みる. イントラブログの記事は自然かつ頻繁に更新されるため, HuNeAS のように要求情報を「意識的に」登録する必要はなく, しかも新鮮かつ具体的な話題が常に提供される. 本システムにより, オンラインからオフラインへの話題のシームレスな移行, さらにはオフラインからオンラインへの情報のフィードバックが期待される.

2. 予備調査

システムの構築に先立ち, 予備調査として, 筆者らの所属している研究室の学生 13 名を対象に, 研究室内に設けられたリフレッシュスペース(以下 RS と略す)に大型ディスプレイを設置し(図 1), イントラブログが対面対話環境においてどのように利用されるかをビデオで 44 日間にわたって記録し観察を行った. RS は人の往来が頻繁に発生し, コーヒーメーカーや雑誌などにより, 人が滞在したくなるような環境となっている. なお, イントラブログは実験開始以前から約 4 ヶ月運用されており, 2005 年 12 月 12 日で総記事数 1017 件, 総コメント数が 3590 件である. また, 被験者には何もインストラクションを与えなかった.

観察の結果, 複数人が RS に存在しているときに, 研究関連の記事をきっかけとして, 先輩が後輩にアドバイスを求める場面や, 研究とは関係のない記事で雑談的対話が発生する場面が見受けられた. しかし, 手動でイントラブログの記事を表示させねばならないため, 対話の発生頻度は週に 2, 3 回程度であった. また, 対話のトリガーとなる記事は, RS に存在する人間が「関わっている記事(記事を書いた人, コメントをつけた人)」であることが多かった. さらに, 記事の内容が

研究に深く関わってくるため、セキュリティの観点上、ディスプレイに表示を行った立ち去るときにブラウザを閉じるという暗黙のルールが形成されていた。

3. システム概要

前項の予備調査より、

1. 対話のトリガーとなる記事を自動的に表示する機能
2. RS に滞在している人と関係している記事を選択抽出する機能
3. メンバーが全員 RS を去ったときに自動でイントラブログを隠す機能

が必要である。これらを踏まえてシステムを実装した(図2)。

システムでは RS に滞在している人物を特定するために RFID システム (Active RFID: RF Code スパイダー A) を利用し、研究室院全員に RFID タグを携帯させることとした。また、2. の機能では、RS に人物 A が滞在していた場合、人物 B が RS に移動してきたら、

1. B がコメントを書き込んだ A の記事
2. A がコメントを書き込んだ B の記事
3. A の記事

を優先的に表示させることで、近づいた B から話題を A に提供しやすいようにしむける。従って、近づいた側が話題の提供者となるため、より自然な形による対話のきっかけ作りを演出している。

また、RS 内に滞在している人が 1 名の場合、システムは RS 内にはいないが室内にはいる人物を RFID の検出範囲を広めることで検知する。ここで、RS 以外の室内にいる人物を先述の A とし、RS 内に滞在している人物を B として上記のルールと同様に表示を行う。この場合、人物 B が室内にいる人物 A へ対面対話をしたければ対面対話へ、イントラブログ上で済むと判断したならばその場でコメントを書くことをうながしている。

ディスプレイでは、上記の優先度を基準に 30 秒ごとに表示する記事の切り替えを行っている。システム利用者は煩わしい操作をせずに、様々な記事閲覧が可能となっており、気になった記事があったならば、RS のテーブルに配置されたワイヤレスマウスを扱うことで、表示の切り替えを停止できる機能を備えている。また、備え付けのキーボードを用いてその場でコメント欄への書き込みも可能である(図3)。

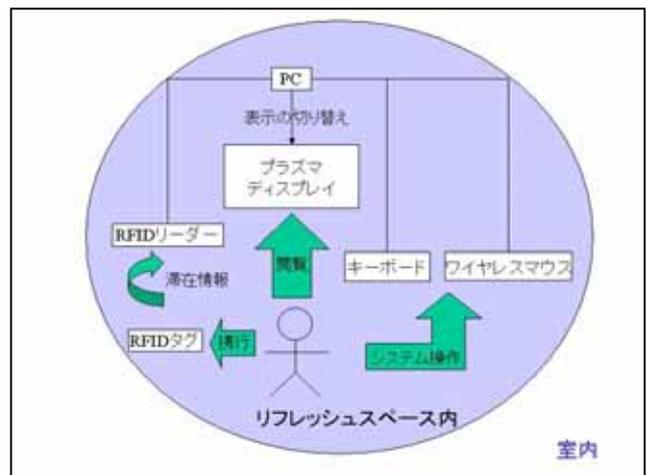


図2 システム概要



図3 設置状況

4. 今後の課題

オンラインのイントラブログの記事から、オフラインでの対面対話を誘発するシステムを実装した。今後は、実際の利用状況を観察・評価し、オフラインからオンラインへのフィードバック機能や、さらなる適切なデバイスや機能の追加を進める。

参考文献

- [1] <http://portal.boxer.ne.jp/intrablog/index.html>
- [2] http://blogs.itmedia.co.jp/pina/2005/06/post_8710.html
- [3] 松田, 西本: HuNeAS: 大規模組織内での偶発的な出会いを利用した情報共有の促進とヒューマンネットワーク活性化支援の試み, 情報処理学会論文誌, Vol.43, No.12, pp.3571-3581, 2002.
- [4] 松原, 白杵, 杉山, 西本: 言い訳オブジェクトとサイバー囲炉裏: 共有インフォーマル空間におけるコミュニケーションを触発するメディアの提案, 情報処理学会論文誌, Vol.44, No.12, pp.3174-3187, 2003.